

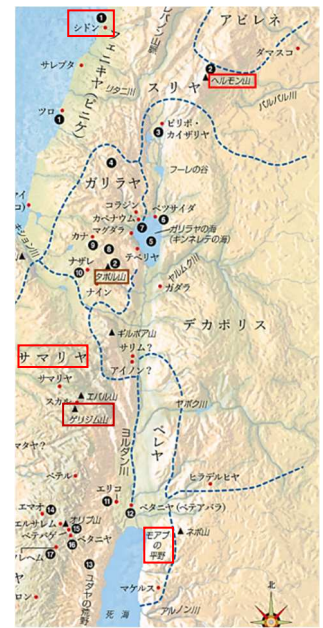
## サマリア人 Samaritan

▶サマリア (Samaria) は、パレスチナ中央部の地域名で、北にガリラヤ、南にユダヤが接する。「列王記」によると、サマリアという名前は昔この辺の土地を持っていた地主「シェメル/セメル Shemer」の名前が起源とされる。

→列王記上 16 : 23~24 ユダ (南王国) の王アサの治世 (BC911~870/913~873) 第三十一年に、オムリが (北) イスラエルの王 (BC885~874/876~869) となり、十二年間王位にあった。彼は六年間ティルツァで国を治めた後、シェメルからサマリアの山を銀二キカル (約 34 kg/キカル×2=約 68 kg、Ag80 円/g×68 kg≒544 万円) で買い取り、その山に町を築いた。彼はその築いた町の名を、山の所有者であったシェメルの名にちなんでサマリアと名付けた。

→オムリ : 列王記に記されている以上に実際には王として成功を収めた (列王記 16 : 21~27)。【モアブ】を支配し、息子の婚姻を通して【シドン】と同名を結び (16 : 31)、サマリアを築いて首都とした。しかし、この卓越した政治力も信仰の面では発揮されなかった (16 : 25~26、ミカ書 6 : 16)。

その後この辺り周辺が北イスラエル王国の首都となったため、都市に限らずにこのあたりの地域やもっと広く北イスラエル王国そのものを指すようになった。



▶BC722 年、北イスラエル王国は、アッシリアに滅ぼされ属領 (住民を奴隷として連れ去りーアッシリア捕囚、代りにメソポタミア北部ーチグリス川とユーフラテス川の上流域ーのアッシリア人、アラム人を移住させた) となる。この移住してきた異民族と混血したのがサマリア人で、以後長く異教徒としてユダヤ人に排斥された。

サマリア人は【ゲリジム山】 (モーセによって祝福の象徴とされ、サマリア人の聖地、申命記 11 : 29、27 : 12、ヨシュア記 8 : 33、士師記 9 : 7) に神殿を持っていて (聖書に記述はない)、祭司もおり、また、独自の解釈をしていたので、ユダヤ人はサマリア人をイスラエルの神に忠実でないと考えていた。

❶サマリア人はユダヤ教と偶像礼拝が混合した宗教を受け入れた。

→列王記下 17 : 26~28

彼らはアッシリアの王にこう告げた。「あなたがサマリアの町々に移り住ませた諸国の民は、この地の神の掟を知りません。彼らがこの地の神の掟を知らないので、神は彼らの中に獅子を送り込み、獅子は彼らを殺しています。」アッシリアの王は命じた。「お前たちが連れ去った祭司の一人をそこに行かせよ。その祭司がそこに行って住み、その地の神の掟を教えさせよ。」こうして、サマリアから連れ去られた祭司が一人戻って来てベテルに住み、どのように主を畏れ敬わなければならないかを教えた。

❷サマリア人の信仰は、❶神が唯一の神である、❷モーセが唯一の預言者である、❸モーセ五書だけが唯一不変の啓示である、❹ゲリジム山が唯一の聖所である、❺天地創造から 6000 年後、ゲリジム山の神殿とサマリア人の繁栄を回復するタヘ (回復者) が現れて新しい統治を始める、に要約される。

▶ユダヤ人とサマリア人との間にある教理や礼拝を巡る対立

❶かつてサマリア人は、エルサレムに神殿を再建することに参加したい (エズラ記 4 : 1) と望み、願い出たが、周辺異教文化の人々との結婚やユダヤ人にとって正当的でない見解の故に、その機会を与えられなかった (結果として、サマリア人は自分たちの神殿をゲリジム山に建てた)。そして、ネヘミヤがエルサレムの城壁を建てるのに専念していた時、サマリア人は、それを阻止しようと激しく邪魔をした (ネヘミヤ 6 : 1~14)。

❷サマリア人は自分たちの神殿をゲリジム山に建て、モーセが特別に国として礼拝する場所として示したのはそこだと主張し、サマリア人の偶像礼拝の宗教はこうして永続された。

③サマリア人はモーセの五書だけを受け入れ、他の預言者の書、ユダヤ人の伝統を拒絶した。

以上の理由から、彼らの間には全く和解できない違いが起こり、ユダヤ人はサマリア人を人類の中で最悪の人種だとみなし（ヨハネによる福音書 8：48）、彼らとは全く付き合いをしなかった（ヨハネによる福音書 4：9）。

ユダヤ人とサマリア人との憎しみにもかかわらず、サマリア人に平和の福音を宣べ伝えて（ヨハネ 4：6～26）、イエスはその間の壁を壊されました。そして、イエスの後に来る使徒たちもイエスの模範に従いました（使徒言行録 8：25）。

▶聖霊によって私たちの目に天来の油が塗られるとき、

①他の人には困難しか見えない場所に可能性が見え、

②他の人には不毛な畑にしか見えない場所に、私たちは神の国のための豊かな魂の収穫を見るのである。→福音を受け入れようとする心に私たちが種を蒔くなら、それはいつの日か、神の栄光のために実を結ぶことになる。

**【参考】新約聖書にある「サマリア人」(旧約聖書では、列王記下 17:29 のみにサマリア人が登場する)**

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 8 / 聖句等の総数 33250 (サマリア人)8個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: サマリア人]
S マタイによる福音書	10:5 イエスはこの十二人を派遣するにあたり、次のように命じられた。「異邦人の道に行ってはならない。また、サマリア人の町に入ってはならない。→イエスの時代、ユダヤ人の中には、決して異邦人と付き合うべきではないと信じている者やサマリア人を嫌悪する者もいた。	
S ルカによる福音書	9:52 そして、先に使いの者を出された。彼らは行って、イエスのために準備しようと、サマリア人の村に入った。	
S ルカによる福音書	10:33 ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに來ると、その人を見て憐れに思い、	
S ルカによる福音書	17:16 そして、イエスの足もとにひれ伏して感謝した。この人はサマリア人だった。	
S ヨハネによる福音書	4:9 すると、サマリアの女は、「ユダヤ人のあなたがサマリアの女のわたしに、どうして水を飲ませてほしいと頼むのですか」と言った。ユダヤ人はサマリア人とは交際しないからである。	
S ヨハネによる福音書	4:39 さて、その町の多くのサマリア人は、「この方が、わたしの行ったことをすべて言い当てました」と証言した女の言葉によって、イエスを信じた。	
S ヨハネによる福音書	4:40 そこで、このサマリア人たちはイエスのもとにやって来て、自分たちのところにとどまるように頼んだ。イエスは、二日間そこに滞在された。	
S ヨハネによる福音書	8:48 ユダヤ人たちが、「あなたはサマリア人で悪霊に取りつかれていると、我々が言うのも当然ではないか」と言い返すと、	

**【参考】種**

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 3 / 聖句等の総数 33250 (種)4個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: 種]
S マルコによる福音書	4:14 種を蒔く人は、神の言葉を蒔くのである。	
S ルカによる福音書	8:11 「このたとえの意味はこうである。種は神の言葉である。	
S ペトロの手紙 I	1:23 あなたがたは、朽ちる種からではなく、朽ちない種から、すなわち、神の変わることはない生きた言葉によって新たに生まれたのです。	